

5 迅速な防疫措置に向けた埋却作業体制の検討

北部家畜保健衛生所

○横山明宏・村田 希

豚熱など、家畜伝染病の発生リスクが高まる中、当所は定期的な農家巡回を通して飼養衛生管理意識の向上と改善を指導すると同時に、萩農林水産事務所（萩農水）と連携し、迅速に防疫措置を行うため防疫計画（計画）等の検討を重ねてきた。中でも埋却作業については平成 29 年 2 月に山口県建設業協会萩支部（協会支部）と協定を締結し、作業に伴う懸案事項等についての定期的な協議に加え、埋却作業の検証のため掘削演習を行い、家保、萩農水及び協会支部による埋却作業体制の検討を行った。

1 協会支部との協議

協会支部と定期的に面談し、防疫作業に関する協定事項の確認及び双方の役割分担、実務に関する懸案事項の協議を行った。また、円滑な連携と迅速な埋却作業を行うため、直接作業を行う地域代表企業（企業）を訪問し、各企業の現状と懸案事項の聞き取り調査を実施した。

その結果、企業の中には、作業人員や重機の不足により、単独での対応が困難であることが判明、地域を超えた企業間連携について協会支部に要請を行った。また、埋却作業の中でも掘削作業に関する実技研修の強い要望があったため、掘削研修会を開催した。

2 掘削研修会の開催

1) 目的

人員や機材、地質等様々な条件に左右される埋却作業は想定が難しく、当所及び萩農水が計画を作成する上で実務作業の確認を行った。また、協会支部及び企業が参加し、「埋却溝の掘削」、「ブルーシート敷設」、「汚染物品の吊り込み」を実演し、作業時間、方法、機材等の検討を行った。

2) 研修内容

埋却溝は、掘削法面の勾配を 2 種試行し、安全性と作業性を確認した。また、安全かつ効率的なブルーシート敷設方法を検討し、敷設時のみ作業者が溝底で作業する方法を試行した。汚染物品の吊り込みについてはオートフックの取扱いや重機アームの安全な可動域確認等を行った。実技後は参加者で意見交換を行い、改善点や今後の課題等を確認した。

3 成果及び今後の課題

協会支部及び企業との協議により、相互認識が深まり、懸案事項の一部改善を行うとともに、掘削研修により作業実技を確認したことで、より具体的な計画を作成することができた。意見交換では、参加した企業からも迅速な防疫作業のため埋却予定地の地質や立地等の事前調査と作業工程の確認が必要との意見も出た。今後、企業と現地確認等を行うなど、より詳細な打合せを実施し、計画をより充実したものにするとともに実務に携わる関係者の不安払拭を図っていく必要がある。